

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと今年度は「SDG s とつながる絵本」をサブテーマとし、研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から、読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書名
著者

出版社 税込価格 出版年 実践学年

SDG s とつながる絵本



楽園のむこうがわ

ノリタケ・ユキコ 作 椎名かおる 文 あすなろ書房 ¥1,650
2021 小高～高

同じ場面から2つのストーリーが始まります。大好きな場所をもっと大好きな場所にするために、自分たちの幸せを求めて……。

自分たちの今の暮らしを、未来を、世界の進む先を、自分のペースでゆっくりじっくり考えたい絵本です。



もったいないばあさん かわをゆく

真珠まりこ 作 講談社 ¥1,650 2019 小～中

「もったいない」が口ぐせのもったいないばあさんが、ポイ捨てがどんなに悪いことなのかということをお教えます。この絵本を読んだ後は、ごみのポイ捨てなんてしたらいけない！ごみが落ちていたら拾わなくっちゃ！という気持ちにさせてくれるのではないのでしょうか。



プラスチック星にはなりたくない！地球のためにできること

ニール・レイトン 作・絵 いわじょうよしひと 訳

ひさかたチャイルド ¥1,760 2020 小～高

今注目を集めているプラスチック製品についてよくわかる絵本です。プラスチック製品がどうやってできたのか、環境にどう影響を与えるのか、絵や写真を通して興味深く紹介しています。調べ学習にも活躍しそうな一冊です。



こんにちは！わたしのえ

はた こうじろう 作 ほるぷ出版 ¥1,540 2020 幼～高
まっしろの紙に自分の絵を描くときのあのドキドキ感やワクワク感。絵筆だけではなく、手や足、からだ全部を使って表現する。「絵を描くのって、たのしい！きもちいい！」そんな感覚を一緒に楽しめる一冊。鮮やかな色遣いと生き生きとした女の子の表情にも注目です。



もっとおおきなたいほうを

二見正直 作・絵 福音館書店 ¥990 2009 幼～小低
王様は先祖代々伝わる大砲を撃ててみたいとばかり思っていたのですが、戦争がないため撃つことができませんでした。そんなある日、ひよんなことから川の向こう岸のきつねを追っ払うために、大砲を撃つことになりました。逃げていったと思ったきつねは、もっと大きな大砲を持って現れます。それに負けじと王様も……。ページをめくるたびに驚きや笑いが起こる一冊です。そして何より平和が一番と思わせてくれる絵本です。

命について考える絵本



秋

かこさとし 文・絵 講談社 ¥1,760 2021 小高～高
「私はちいさいときから、秋が大好きでした。ところが、そのすてきな秋を、とてもきれいなときがありました。とてもいやな秋だったことがあります。」戦争のイメージは終戦を迎えた夏のように思っていたのですが、絵本のこの言葉を読んでタイトルを「秋」にした作者の思いが伝わります。秋の季節に読み聞かせて、子どもたちと日常の中の平和について語り合いたいと思わせる絵本です。



ぼく、こわかったんだ

横須賀 香 作・絵 BL出版 ¥1,650 2019 小中～高
「ぼく、さいきんしぬってことを考えると、すっごくこわい。」死んだらどうなるのか、不安でたまらない少年。子どもの頃、誰もが一度は死に対する漠然とした恐れを抱くと思いますが、そんな不安にやさしく寄り添ってくれる絵本です。写実的でありながら温かさを感じる絵にも引き込まれます。

心が癒やされる絵本



しずかな夏休み

キム・ジヒョン 作 光村教育図書 ¥1,540 2021 幼～高
モノトーンの色調の絵が静かで優しい、字のない絵本です。林の中を吹き抜ける風、セミの声や湖畔の波のキラキラまでページから立ち上ってくるようで、まさに絵がたくさんを語りかけてきます。帰省もままならないこの時期に、田舎に帰る気分を子どもたちと共有できそうです。

あたたかな気持ちになる絵本



ちびゴリラのちびちび

ルース・ボーンスタイン 作 岩田みみ 訳
ほるぷ出版 ¥1,375 1978 幼～小低
ちいさなかわいいゴリラのちびちび。おかあさんもおとうさんも森の動物たちも、みんなちびちびが大好きでした。どこに行っても愛されているちびちび。そんなある日、なにかが起きました。ちびちびがどんどん大きくなって……。みんなに愛され大きくなっていくちびちびのかわいいお話に心の温まる絵本です。

版画の絵本



雨ニモマケズ

宮沢賢治 作 小林敏也 画
好学社 ¥1,870 2013 幼～高
「雨ニモマケズ」の有名なフレーズが版画の絵本になりました。詩の一言一言が、紙面いっぱいに広がり、版画独特の迫力と美しさに目が離せません。ちょっとした遊び心もあって、子どもから大人まで楽しめます。



みたらみられた

竹上 妙 作 アリス館 ¥1,650 2021 幼～中
散歩道で出会った野良猫、野原で草を食べる牛たち、ふと目が合った生きものたちを「見たら」なんと向こうからも「見られた！」ドキッとする瞬間を、迫力ある木版画の絵で色鮮やかに、そしてどこかユーモラスに描いています。

楽しい絵本



どんぐり

エドワード・ギブス 作 谷川俊太郎 訳

光村教育図書 ￥1,430 2014 幼～小

地面に落ちた小さな一粒のどんぐり。いろいろな動物がやってきて食べられそうになるのですが、そのたびに「お願い、いまは食べないで。いまにもっとおいしくなるから」と言います。やがて立派な樫の木になるどんぐり。繰り返しが心地よく、最後はページが広がる仕掛けにも驚かされます。動物たちの思いやりや、小さなどんぐりに詰まった生命力が感じられます。



なわとびよ〜ん

シゲリカツヒコ 作

KADOKAWA ￥1,540 2021 幼～中

なわとびが苦手なケンタの前に、謎のカエル男の二人組が現れてケンタをなわとびに誘います。意外なメンバーが意外な場所で大なわとびを跳んでいく繰り返しが楽しめます。跳ぶ前と跳んだ後のページを見比べると、いろいろな発見もあります。運動会の前に読むと盛り上がるかも。



ねこはるすばん

町田尚子 作 ほるぷ出版 ￥1,650 2020 小～高

家の人がみんな出かけた後、ねこはどんなふうにおるすばんをしていると思いますか？実はみんなの知らないところでカフェや美容室、釣り堀などへ行っているかも……！？ページをめくるたびに、笑いとねこへの愛が生まれる絵本です。